

仙台育英学園沖縄高等学校
第一期生卒業式 校長式辞

海開きが各地で進み初夏を感じる季節となりました。本日、仙台育英学園沖縄高等学校で初めての卒業式を挙行できましたことを大変嬉しく思います。

本日はご公務ご多用にも関わらず、高江洲 実（たかえす みつる） 沖縄市教育長様をはじめとするご来賓の皆様にご臨席の栄を賜りました。本校を代表いたしまして感謝申し上げます。

また卒業生のご家族の皆様にも多数お集まり頂きました。ご子息・ご息女のご卒業、誠におめでとうございませう。そして在学中3年間における本校の教育活動へのご理解とご支援に深く御礼申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございませう。正直に申し上げますと、第一期生の皆さんの卒業式ということもあり、感無量です。入学式の時の皆さんの姿は今でも思い浮かびませう。本当に立派になりましたね。

ご存知のように、仙台育英学園沖縄高等学校、通称、沖縄高校は東日本大震災後に本学園が偶然にも沖縄で得た様々なご縁とうちなんちゅの皆様からのご支援により開校することができました。そのため若人たる皆さんには、コザにある本校の中で互譲を育み、中頭の地域の皆様を支えられていることに感謝し、そしてうちな一の振興にむけた理想を掲げて卒業していくことが期待されています。一期生の皆さんは、IT パスポートや情報セキュリティマネジメントといった国家資格の受験や取得に留まらず、一人一本の創業計画書とそれに付随するHPを完成させるなど、理想を掲げて本日卒業されませう。極めて高いレベルで本校そして地域の期待に一期生の皆さんは応えました。そのことに敬意を表します。

今、期待に応えられてきた一期生の皆さんの成長した姿を目の前にし、校長による最後の授業として、皆さんにこれからどう生きて欲しいかという願いの言葉を贈りたいと思ひました。

皆さんへの願ひはシンプルです。「ケチになって欲しくない」というものです。

その背景にはここ数年、〇〇パという言葉をよく聞くことがあります。例を挙げると、コスパ、タイパ、メンパといったものです。金銭的な、時間的な、精神的な負担をコス

トとみて、その負担をかけたことに対してどれだけの利得があるかというパフォーマンスを捉えようとする考え方からの造語です。1円、1秒、一手間に対して何らかの恩恵がなければ、無駄なことをしたという考え方が根底にあるように思えてなりません。もちろん、世の中にある資源は経済学から語られるように有限性があり、限られた資源をもっとも成果の得るよう配分しようとするのが悪と断じたいわけではありません。ただし、こういった考え方が物事を考える上で隅々まであり、皆さんが今後生きていく中でこのような考え方に支配されるようにはなって欲しくないと願っています。

例えば今日誰かが教室に入ろうとした時にドアを開けて入りやすくしたといった小さな心配りが明日の誰かからのお返しに繋がるとは限りません。むしろ余計なお世話と思われてしまうこともあるかもしれません。しかし、他者からどう思われていようと、自分はこういった心配りができる人間として人生を歩んでいるのだという誇りが芽生えます。

3年間学んでこられた皆さんは既にお気付きのように、新しい事柄に挑戦すること、中でも起業は自分の人生から導かれた動機が鍵となります。このことは起業家を主人公とした小説である岩井圭也さんの著作『サバイブ!』でも語られています。

「誰もが自分だけの強みを持っている。なぜなら、誰にでも『人生』はあるからだ。それまでの生きてきた過程を振り返れば、人と違う事業、他人にはまねできない事業がつかれるはずだ。」

皆さんには、1円、1秒、一手間を惜しむという考え方だけではなく、人生という幹を誇りによって太くできよう1円、1秒、一手間を惜しまない、「ケチにならない」ことも考えの一つに入れ、起業を含む次の挑戦に活かして欲しいと願っております。

本日皆さんにお伝えした「ケチにならない」は、生活信条七箇条はもとより校歌の中に凝縮されている考えです。今後の人生の中でケチになっていないか判断に迷った時は、ぜひ校歌を口ずさんでもらえれば嬉しいです。

皆さんが将来においても、大志を抱き、奉仕を尊び、寛容を示していただくことを祈念し校長の式辞といたします。

ご卒業おめでとうございました。

2026（令和8）年3月11日
仙台育英学園沖縄高等学校
校長 加藤 聖一